

03 九州大学G-COE「新炭素資源学」公開講座および環境経済に関する新炭素資源学G-COE講演会を開催

3月25日、福岡市天神のアクロス福岡にて、九州大学G-COE「新炭素資源学」公開講座および環境経済に関する新炭素資源学G-COE講演会が行われました。

前半の公開講座の部では、専門家だけでなく、一般の市民の皆さんにも新炭素資源学の意義を理解していただくという見地から、社会的観点や生活に密着した視点からの講演および討論が行われました。まず、九州大学大学院経済学研究院の藤田敏之准教授から開会の挨拶があり、次いで、拠点リーダーの永島英夫教授、福岡女子大学人間環境学部の大中忠勝教授、福岡女子大学人間環境学部の馬昌珍准教授、九州大学産学連携センターの堀史郎教授による講演がなされました。

後半の講演会の部では、世界的なエネルギー・環境問題の解決にとって重要な位置

を占める中国の状況を主題に、ノーベル平和賞(2007年)に輝いた「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」の第四次評価報告書の代表執筆者を務めた中国清華大学3E研究院の張希良教授や、世界銀行の上級電力エンジニアである高橋正貴氏などの専門家を海外からお招きし、より専門的な見地から講演と討論が行われました。まず、九州大学大学院経済学研究院長・学府長の川波洋一教授から開会の挨拶があり、次いで、永島教授による基調講演、そして、九州大学大学院経済学研究院の堀井伸浩准教授による講演会趣旨説明がなされました。講演会第一部「中国のエネルギー利用の現状と持続可能性への挑戦」では、中国山西省社会科学院能源経済研究所の王宏英所長、堀井准教授、張教授によって、日本において十分に知られていない中国のエ

ネルギー対策の実態について講演がなされました。講演会第二部「日本の省エネルギー・環境技術をいかに中国に普及させるか?」では、九州電力総合研究所の原田達朗氏、藤田准教授によって、日本の環境技術とその普及の可能性について講演が行われました。最後に、王所長、張教授、原田氏、藤田准教授、堀井准教授、および高橋氏の間で総合討論が行われ、中国の環境問題への取組みの評価の共有化および日・中の今後の環境問題への取組みの課題と展望について活発な議論が交わされました。

公開講座・講演会には、計162名が参加し、一般からも多数(45名)の参加者がありました。講演者に対しては、参加者から多くの質問・意見が寄せられ、活発な質疑が交わされました。閉会后、招待者を交えた懇親

会も行われました。

今回の公開講座は、新炭素資源学を日常生活や社会全体の視点から捉えなおすことで、聴衆に対して問題提起や情報提供を行うことができたというだけでなく、本GCOE拠点のメンバー・学生にとって自らの研究をより広い文脈の中で把握する機会となったという意味でも、有意義なものとなりました。また、後半の講演会は、この分野で世界をリードする一流の専門家による最新の知見を拠点内外に提供する大変貴重な機会となりました。本拠点では、国際的・学際的・社会的に広い視野をもった公開講座や講演会を今後も積極的に開催していきたいと考えています。



休憩時間に談笑する参加者

1	2	3
4	5	6
7	8	9

- 10
- 1. 拠点リーダー 永島英夫教授
 - 2. 福岡女子大学人間環境学部 大中忠勝教授
 - 3. 福岡女子大学人間環境学部 馬昌珍准教授
 - 4. 九州大学産学連携センター 堀史郎教授
 - 5. 九州大学大学院経済学研究院長・学府長 川波洋一教授
 - 6. 九州大学大学院経済学研究院 堀井伸浩准教授
 - 7. 中国山西省社会科学院能源経済研究所 王宏英所長
 - 8. 中国清華大学3E研究院 張希良教授
 - 9. 九州電力総合研究所 原田達朗氏
 - 10. 総合討論の様子

